

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 60 分

## 解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

大問数は昨年と同じ4題であるが、論述量がかなり増加した。

## 新課程を踏まえた出題

「カーボンニュートラル」についての出題が見られた。

## その他トピックス

特になし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・ テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 論述	光合成	生物	問 5 カーボンニュートラルとは、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量と吸収量を等しくし、実質的に増加量を0にすることを指すことから考えよう。	標準
II	空欄補充 選択 論述 計算	生命現象と 物質	生物 基礎 ・ 生物	問 2 本文中に「血しょうの量は大きく変化しない」とあることから、消化液として分泌された水の総量と飲水量の和が、消化管で吸収された水の総量と消化管から便と共に排出された水の量の和と等しくなると考えられる。	やや難
III	記述 論述 計算	植物ホルモ ン・遺伝 子・遺伝	生物	問 4 F1 ですべての個体が病原体Fに対して抵抗性で、病原体Gにより病気になった(感受性を示した)ことから、病原体Fに関して抵抗性の形質は感受性の形質に対して顕性、病原体Gに関して抵抗性の形質は感受性の形質に対して潜性である。	やや難
IV	空欄補充 選択 記述 論述	生態系	生物 基礎 ・ 生物	問 5 「先進国の沿岸域」とあることから、富栄養化が問題となった後の、人間活動の変化について考えるとよいだろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・知識問題については、教科書を中心とした基本的な学習と、標準的な問題の演習を行おう。
- ・例年様々な分野から出題される。今年度は出題されなかった、発生・刺激と反応・進化などの分野の学習もしておこう。
- ・出題頻度が高い、遺伝・遺伝計算については、特に対策をしておこう。
- ・例年、様々な制限字数の論述問題が出題されるので、多くの問題を練習しておこう。